

恐ろしい家屋の倒壊

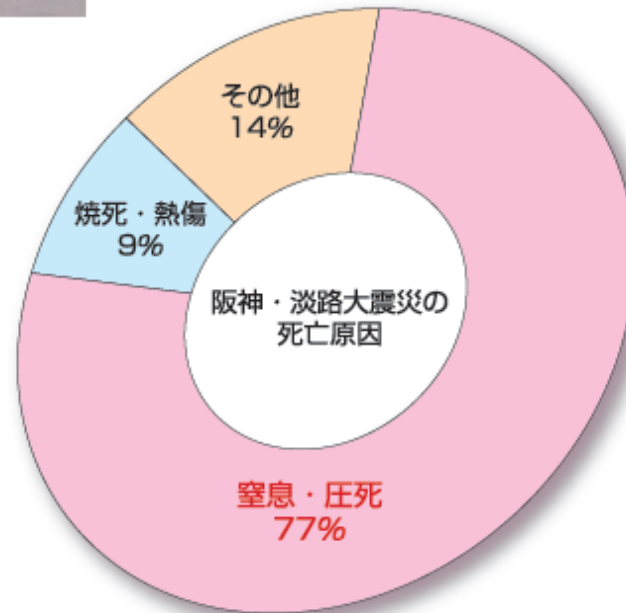
地震による死亡やケガの原因で最も多いのは、家屋の倒壊や家具の転倒による「窒息・圧死」であり、阪神・淡路大震災での死者の約8割を占めていました。

同大震災では、おおむね次のような特徴を持つ木造家屋が、特に甚大な被害を受けています。

- ①昔の基準で建てられた古い家で、筋交いの量が少ない家屋。
- ②瓦屋根など家の上部が重い家屋。あるいは2階を増築した家屋。
- ③壁が少ない、あるいは1階が車庫など、開口部や強度が偏った家屋。
- ④柱と土台を結ぶ金物等が不足するなど、柱が地面にしっかり固定されていない家屋。
- ⑤筋交いががないか、不足している家屋。



倒壊した被災家屋
(平成19年新潟県中越沖地震)



「阪神・淡路大震災調査報告
総集編」阪神・淡路大震災調査
報告編集委員会, (2000), 厚生省
大臣官房統計情報部「人口動態
統計からみた阪神・淡路大震災
による死亡の状況」(1995.12)
より作成

住まいの耐震性を確保しましょう

木造住宅の耐震性には、以下のチェックポイントがあります。

1) 新耐震設計基準(昭和56年施行)に基づき設計されていますか？

2) 住宅が過去に大きな災害を経験したことがありますか？
浸水被害も要注意です。

3) 住宅の構造、形、偏って大きな窓があるなど、耐震に関わる基本的な住宅の性質に問題ありませんか？
耐震性の判断には建築の専門知識が要求されます。
目立った症状が無くても耐震診断を受けることが重要です。

4) その他、ドアや窓の立て付けが悪い、建物が傾いているのが肉眼でもわかる、壁に長い斜めのひび割れが入っているなどが見られる住宅は注意が必要です。

財団法人日本建築防災協会から「誰でもできるわが家の耐震診断」が提供されています。一度使われてみてはいかがでしょうか。

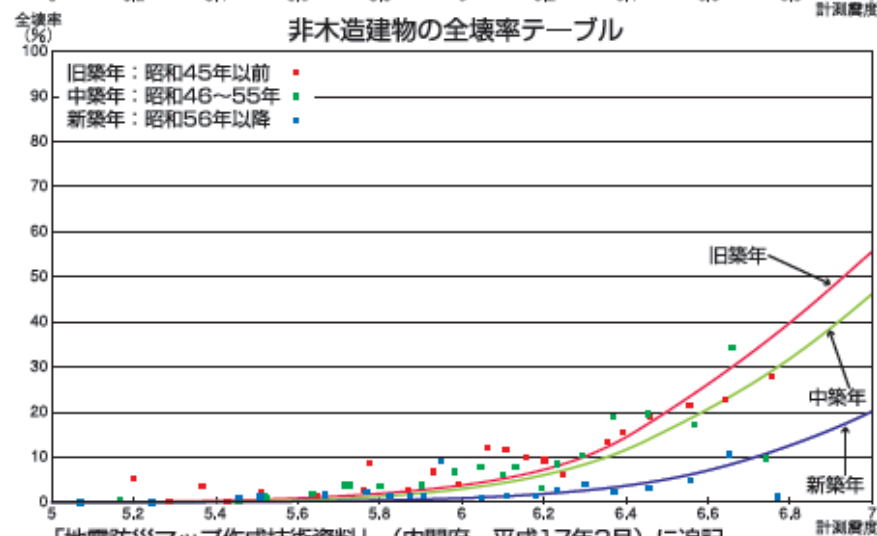
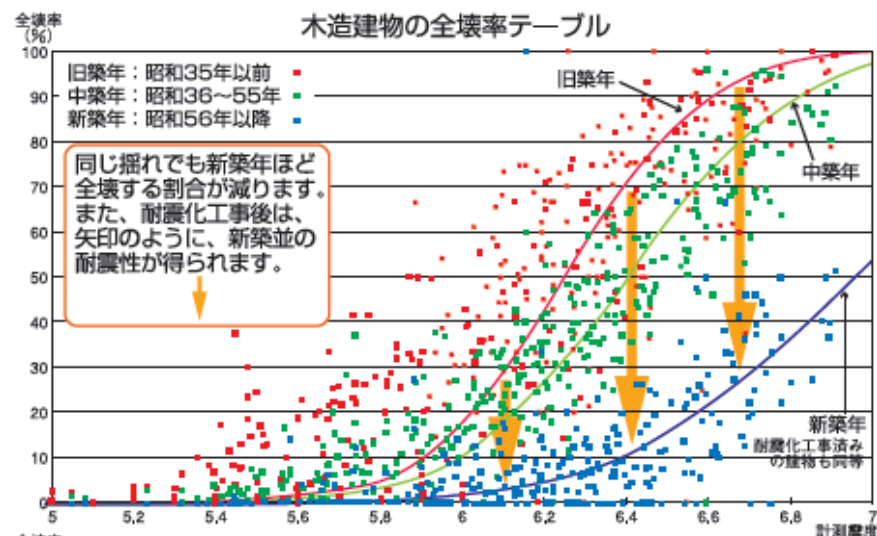
(<http://www.kenchiku-bosai.or.jp/wagayare/wagayare.pdf>)

なお、木造住宅の耐震化の平均的な費用は約160万円(財団法人建設経済研究所推計)といわれていますが、実際の施工費用は、工事の内容によっても異なるので、信頼できる専門家にご相談下さい。

耐震化工事は有効な手段です

昭和56年以降に建設された「新築年」の建物は、強い揺れに襲われても旧築年・中築年といわれる古い建物に比べて、壊れにくくなっています。

また、旧築年・中築年の建物が耐震化されると、新築年と同等の耐震性を持つようになり、大きな揺れでも壊れにくくなるため、地震時の建物倒壊による被害を減らすために有効な手段といわれています。



「地震防災マップ作成技術資料」(内閣府, 平成17年3月) に追記